

山梨大学医学部長からの言葉



山梨大学医学部長

中尾篤人

このたび第62回全国医学生ゼミナールが、山梨大学医学部学生会の主管により、山梨県において開催されることになり大変嬉しく思います。

山梨大学医学部の特徴は、富士山や南アルプス、八ヶ岳に囲まれた「シルクハットをひっくり返したような」（太宰治「新樹の言葉」より）美しい甲府盆地の静かな環境の中で、数千人程度の教職員・学生が日々協力しながら教育・研究活動をしていることです。このような恵まれた自然環境と教職員・学生間の風通しの良さは東京や大阪など大都市に立地する数万人規模の大学では決して手に入りません。このような学問に没頭するには極めて恵まれた自然および人的環境を活かし、将来の医学を担う学生を輩出するための豊かな教育を提供することが本学の目的の1つです。本ゼミナールもその一環として、果物やワインといった特産物、温泉やハイキングなどを存分に楽しんでいただく中で、参加者が友好を深め、互いに人間性をはぐくみ、社会から信頼される医療人として成長するための特別な場になることを願っています。

世界は日々進歩しています。ビッグデータ、人工知能、ロボットなどのテクノロジーが社会だけでなく医学も根底から変えつつあります。NatureやCellといった科学誌では私達のカラダや心に関する常識を一変させる報告が毎月のように掲載されています。このような変革期だからこそ、多様性を維持し、先入観なく自分たちの考えを議論しあい、新しい理念や理想、概念を生み出す姿勢が本当に重要です。62回目（年目）の本ゼミナールで、医学生の活動についてこれまでにない重要なビジョンが提唱され、新しい節目となる機会となることを期待しています。